

実務的科目一覧

黄色で塗られている科目は、実務的教員による実務的教育を行う科目となる。

分野	授業科目	区分	単位	時間	1年次		2年次	
					前期	後期	前期	後期
人間と社会	人間の理解	講義	4	60	30	30		
	社会と制度の理解 I	講義	2	30			30	
	社会と制度の理解 II	講義	2	30				30
	地域福祉論	講義	2	30			30	
	人間関係とコミュニケーション	講義	2	30	30			
	国語表現	講義	4	60	30	30		
介護の分野	介護の基本 I	講義	4	60	30	30		
	介護の基本 II	講義	4	60			30	30
	介護の基本 III	講義	4	60			30	30
	コミュニケーション技術	講義	4	60	30	30		
	生活支援 A(生活支援)	講義	2	30		30		
	生活支援 B(栄養/調理)	演習	4	60			60	
	生活支援 C(被服10・住居5)	演習	4	60	60			
	生活支援 D(実技基礎)	実技	2	60	60			
	生活支援 E(実技応用)	実技	2	60		60		
	生活支援 F(重複障害者の介護)	講義	2	30		30		
	介護過程 I	講義	4	60	30	30		
	介護過程 II(ケアマネジメント)	講義	2	30			30	
	介護過程 III(演習)	講義	4	60				60
	介護総合演習 I	講義	4	60	30	30		
	介護総合演習 II	講義	4	60			30	30
介護実習	実習	15	456	80	176		200	
こころと体のしくみ	障害の理解	講義	4	60			30	30
	こころとからだのしくみ I	講義	4	60	30	30		
	こころとからだのしくみ II	講義	4	60			30	30
	認知症の理解	講義	4	60	30	30		
	発達と老化の理解	講義	4	60	30	30		
	医療的ケア I	講義	4	68	34	34		
	医療的ケア II 演習	演習	4	60			60	
	合計		109	1934	534	600	360	440
	実務経験のある教員による科目			1544	384	510	240	410

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護の基本 I ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

「介護」というものを歴史的な経緯から意義や役割を理解し、自立に向けた介護とは何かを学ぶ。その人らしい生活を支援する専門職として、介護を必要とする人の生活を理解し、求められる倫理観や姿勢を学ぶ。

2 到達目標

介護を必要とする高齢者や障害のある方の尊厳の保持、自立支援という新しい介護の考え方を理解するため、個人、家族、社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解することができ、信頼のおける専門性を身に付ける。

3 授業の方法

担当教員の業務経験を活かしながら、利用者を取り巻く老人福祉法や介護保険法、実際の利用者のQOLについて、尊厳、自立支援のあり方について授業を展開する。

PCプロジェクターによるパワーポイントを利用した授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%

授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

授業態度、レポート・提出物の状況の評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎回事業毎の配布資料を再確認すること。

教科書の予習・復習をしてくること。

7 使用教材・教具

新・介護福祉士養成講座 介護の基本 I（第3版） 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

演習を取り入れながら授業をすすめていきます。

自ら考え自ら行動することができるよう積極的に考える力をつけていきましょう。

9 教員氏名（ 小嶋 千尋 ）

所 属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科）

実務経験の詳細（介護及び老健施設において介護職員として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (介護の基本 I)

回数	授業内容
1	自立に向けた介護とは 日本における介護の成り立ちについて
2	介護とは 介護の成り立ち 「介護」という言葉の始まり
3	老人福祉法の制定期 集団ケアから個別ケアへ
4	在宅での介護 ホームヘルプサービスの始まり
5	介護の概念・定義 介護保険制度の創設後の動き
6	素人の介護から介護福祉士へ 介護の概念・定義
7	介護問題の背景 少子高齢化 家族機能の変化 介護の社会化
8	介護ニーズの変化 高齢者虐待について 介護問題の背景を考える
9	私たちの生活の理解 生活にとって大切な要素
10	「生活支援」としての介護とは 介護の専門性、求められる役割の変化
11	利用者の QOL を支える視点 新たな社会的課題
12	生活障害の軽減について ICDH から ICF へ
13	専門性を支える知識と技術の必要性 求められる介護福祉士像
14	高齢者や障害をもった人たちの暮らしと介護について
15	前期試験 解説
16	生活障害の理解 生活障害の視点
17	生活障害かの視点からとらえた認知症ケア 認知症ケアにおける生活障害
18	生活環境の重要性 利用者に合った生活の場 施設における生活環境の変化
19	人的な生活環境の重要性 人的環境としての介護職員の重要性
20	「くつろぎの場」「安心できる生活の場」の整備
21	介護の働きと基本的視点 介護が行う生活支援 身体介護とその意義
22	食事、排泄、休憩と睡眠、身体清潔、口腔ケア・整容、移動介助のあり方
23	生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義 相談援助を行うということ
24	尊厳を支える介護 人はかけがえのない存在 「介護を受ける」ということ
25	介護を必要とする人たちの人権を擁護する
26	QOL の考え方 ノーマライゼーションの実現
27	ICF の考え方 ICF とは 介護における ICF のとらえ方
28	ICF にみる相互関連性 ICF の視点に基づくアセスメントの方法
29	介護とリハビリテーション リハビリテーションの国際的な取り組み
30	定期試験 試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護の基本Ⅱ ）

学科名 介護福祉科

学年 2 年

1 授業の概要

介護福祉士の資格や役割について理解し、住み慣れた地域で可能な限り生活を継続したいと願っている利用者のニーズを充足するために、多職種との連携をどのように行っていくのか学ぶ。また、利用者の安全確保と介護職自身の健康管理についても理解を深める。

2 到達目標

介護福祉を取り巻く社会状況や制度を理解し、多職種との連携を理解する。
ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーションなどの意義や方法を理解できる。介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解ができる。

3 授業の方法

介護の基本Ⅰを基に、憲法のセーフティネット関連や社会福祉法などを理解させる。
グループワークを行い、学生の考えを引き出し自らの意見が述べられるようにする。

4 成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、授業態度、積極的に授業に参加しているかを評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業経過に沿って、教科書の予習・復習をしていくこと。
配布プリントの見直しをすること。

7 使用教材・教具

新・介護福祉士養成講座 介護の基本Ⅱ

8 学生へのメッセージ

介護福祉士としての職業観・労働観を養っていくことを学びましょう。
複雑化、多様化、高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況における、介護福祉の基本となる理念を理解できるよう学びましょう。

9 教員氏名（ 田島百合子 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（介護及び老健施設において介護職員として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (介護の基本Ⅱ)

回数	授業内容
1	介護福祉士を取り巻く状況 ・求められる介護福祉士像
2	社会福祉士及び介護福祉士法 ・法規に関連する諸規定
3	介護における専門職能団体の活動 ・職能団体としての意義と目的
4	介護福祉士の倫理① ・介護実践における倫理
5	介護福祉士の倫理② ・利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践
6	介護サービスの特性① ・介護サービスに求められること
7	介護サービスの特性② ・ケアマネジメントの意味としくみ
8	介護サービスの特性③ ・諸外国によるケースマネジメント
9	介護サービス提供の場の特性 ①(施設に入所している高齢者)
10	介護サービス提供の場の特性 ②(在宅で生活している高齢者)
11	介護サービス提供の場の特性 ③(施設に入所している障害者)
12	介護サービス提供の場の特性 ④(在宅で生活している障害者)
13	介護人材キャリアパスについて ・介護を取り巻く資格のありかたについて
14	まとめ 介護を取り巻く状況の変化について ・介護保険の見直し等について
15	定期試験・解説
16	多職種連携の意義と目的 チームアプローチとは何か、誰がメンバーになるのか
17	多職種連携②協働職種の理解と連携の在り方
18	地域連携の意義と目的、地域連携の形とは、個人、組織間、制度としての連携
19	地域連携の実際、その人の暮らしの流れに沿う連携のあり方
20	地域連携③所属する職場機能を背景とした連携のあり方
21	介護における安全の確保の重要性
22	介護における安全の確保のためのリスクマネジメントの視点
23	事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ
24	感染管理のための方策 生活の場での感染対策とは
25	感染管理のための方策 高齢者施設での安全対策とは
26	健康管理の意義と目的、健康管理に必要な知識と技術
27	安心して働ける環境づくり ・介護労働者の労働環境
28	介護福祉士を目指す皆さんへ ・専門職業人としての介護職のあり方
29	まとめ 介護を取り巻く状況の変化と自身の学び方
30	定期試験 試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護の基本Ⅲ ）

学科名 介護福祉科

学年 2 年

1 授業の内容

まずは福祉、医療における専門用語の解説を深める。

国家試験に向けて、介護の基本の分野の問題を解き、自ら解説を行うことで、知識を深めていく。また、介護の基本に関して、他の分野との関連性など多面的に評価することにより理解・知識をより深める。

2 到達目標

介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的知識や事故への対応を理解する。介護従事者自身が心身ともに健康で介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。

3 授業の方法

介護実習現場で学んだ施設サービスや在宅サービスについて、介護保険制度、障害者総合支援法、老人福祉法がどのように関連しているか各基準を学び理解する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%

授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、授業態度、小試験をもとに評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って教科書の予習・復習をしてくること。

授業で配布した資料を再度確認すること。

7 使用教材・教具

介護福祉士学習帳 株式会社エクスマレッジ出版社

プリント配布

8 学生へのメッセージ

高齢社会において、介護福祉士の社会的期待と役割は大きく変化している、各法令についてしっかりと学びます。1問ずつ確実に課題を読み込むことで、しっかり理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 小嶋千尋 ）

所 属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科）

実務経験の詳細（介護及び老健施設において介護職員として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (介護の基本Ⅲ)

回数	授業内容
1	介護を必要とする人の理解と介護の基本的視点
2	「その人らしさの理解」 主体的な存在
3	生活様式などの多様性 その人らしさを理解する
4	生活環境のとらえ方 多様な施設の理解
5	生活障害の視点と生活ニーズ、生活障害とは
6	高齢者、障害のある人の QOL 向上の考え方について「生活の質」とは
7	ノーマライゼーション、高齢者、障害者のある方の「普通の生活」とは
8	利用者主体・個別ケア 利用者主体とは生活の主体者である
9	人の生涯の概念のとらえ方(ICF) ICF について学ぶ
10	相互作用モデル 環境因子、健康因子、個人因子について
11	ストレングスモデルとは 内的資源と外的資源について
12	リハビリテーションと介護 WHO における全人的復権の提唱
13	リハビリテーション分野と専門職 PT,OT,ST の役割
14	4つのリハビリテーションの分野を理解する
15	定期試験 解説
16	介護福祉士制度 「社会福祉士法及び介護福祉士法」
17	介護福祉士の定義と資格 介護福祉士の定義規定とは
18	求められる介護福祉士像を理解する
19	「社会福祉士及び介護福祉士」の義務規定について
20	多職種協働 様々な医療関係者、福祉関係者との連携とは
21	介護福祉士の倫理 生命倫理を理解し尊厳ある介護の実践を行う
22	職業団体 介護福祉士会倫理綱領を理解する
23	介護人材確保「社会福祉事業に従事する者の確保を図るための基本方針」
24	介護サービスにおけるケアマネジメント ケアプランの作成と介護支援専門員
25	諸外国におけるケアマネジメント (英国、アメリカのケースマネジメント)
26	介護保険制度で提供されているサービス 予防給付と介護給付
27	介護実践における連携 他職種アプローチ
28	連携する専門職(福祉職)の機能と役割
29	介護実践における連携 介護における安全の確保とリスクマネジメント
30	定期試験 試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ コミュニケーション技術 ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

介護福祉士に必要とされる、コミュニケーションの意義や目的を理解し、さまざまなニーズを持った利用者及び、家族との関係性また、介護におけるチーム内の関係の構築を図れるよう、さまざまな技法を学んでいく。

対象者との支援関係の構築を行い実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。

2 到達目標

しっかりと自己覚知ができ、「相手の立場に立って」コミュニケーションを積極的に取ることができる。障害に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得する。

本人・家族のおかれている状況を理解し、支援関係の構築や意思決定を支援する内容とする。

3 授業の方法

グループワークを通して高齢者、障害者の方とのコミュニケーション方法を学ぶ。

介護サービスを提供する際に必要なコミュニケーションやコミュニケーションを通して利用者の状態を予測をしたり利用者の健康維持にも必要な科目であることを理解させる。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%

授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、積極的に授業に参加しているか評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った教科書の予習・復習をしていくこと

授業で配布している資料に確認する予習・復習をしていくこと。

7 使用教材・教具

新・介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

まずは、リラックスしてコミュニケーションをとることに慣れていきましょう。

さまざまなコミュニケーション技法を使うことで、相手との信頼関係が構築できることを身につけていきましょう。

9 教員氏名（ 小嶋 千尋 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（特別養護老人ホームにおいて介護職員として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（ コミュニケーション技術 ）

回数	授業内容
1	介護におけるコミュニケーションの基本 意義と目的
2	介護におけるコミュニケーションとは？ 演習：自身のジョハリの窓を
3	介護におけるコミュニケーションの役割 利用者と家族の信頼関係の形成
4	コミュニケーションを促す環境づくりとは
5	介護におけるコミュニケーションの役割 相手に関心を示す姿勢とは
6	生活支援とコミュニケーション 演習：介護者と利用者とのコミュニケーション
7	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 話を聞く姿勢
8	利用者の感情表現を察する技法 事例：感情表現を察する技法を演習する
9	利用者の納得と同意を得る技法 相手の尊厳を支えながら要約して伝える
10	介護場面における、利用者、家族とのコミュニケーション 納得と同意を得る技法
11	質問の技法 開かれた質問と閉じられた質問について
12	利用者の意欲を引き出す技法 演習：意欲が低下している利用者に働きかける技法
13	利用者と家族の意向を調整する技法 演習：利用者の意向を引き出す技法の方法
14	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法 回想法を通して利用者を理解する
15	定期テスト 解説
16	利用者の特性に応じたコミュニケーション コミュニケーション障害とは
17	コミュニケーション障害のある利用者への対応
18	利用者の特性に応じたコミュニケーション 高次脳機能障害の特性を理解する
19	利用者の特性に応じたコミュニケーション 失語症、構音障害の特性
20	利用者の特性に応じたコミュニケーション 認知症の特性を理解する
21	精神障害の特性に応じたコミュニケーション技術を理解する
22	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 I 聴力障害者の理解
23	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際 II 知的障害者の理解
24	チームのコミュニケーション 演習 チームのコミュニケーションの方法、必要性について
25	記録について 介護における記録の意義と目的
26	記録について 介護における記録の種類
27	報告・連絡・相談 事例：介護福祉職にとっての重要な報告・連絡・相談について
28	会議の種類と運用 職場内ミーティングのあり方
29	介護におけるチームのコミュニケーションの理解
30	定期試験 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術 A ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、利用者の主体的な生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。
介護を必要とする方々の生活を理解し、介護福祉士がおこなう、その方の心身の状況に合わせた生活支援の提供のために、基本介護技術の応用力を高めていく。

2 到達目標

「人間の生活とは何か？」を考え、利用者の生活の視点をとらえる。個別性に応じた生活支援の提供を実践できる。ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援に繋がることを学ぶ

3 授業の方法

普通の生活ができなくなった高齢者や障害者の「生活」を支援することとはなにか、障害があっても「普通の生活」をどのように支えるか、各法規を学びながら生活を支えることを学ぶ。

4 成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、積極性のある授業態度を評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って予習・復習をすること。
配布した資料の見直しをすること。

7 使用教材・教具

「生活支援技術 I」 新・介護福祉士養成講座 第3版 中央法規

8 学生へのメッセージ

継続する生活のなかで、利用者の尊厳の保持、自立・自律を支援しながら、一人ひとりの個別性を重視しどのような支援が適切かを考え理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 小嶋 千尋 ）

所 属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科）

実務経験の詳細（特別養護老人ホームにおいて介護職員として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (生活支援技術A)

回数	授業内容
1	生活を理解する視点 生活とは何か 生活の場の特徴
2	生活支援の基本的な考え方 介護福祉士と生活支援
3	ICFの視点と生活支援 ICFを生活支援に活かす方法
4	生活支援と介護予防 介護保険法による介護予防とは
5	介護保険と介護予防 介護保険法による介護予防の種類
6	家庭生活の理解 家族とは 家庭生活の営みについて
7	自立生活を支える意義と目的 家事の意義について 家事支援と制度の理解
8	家事支援における介護技術 家事支援におけるアセスメントとICFの考え方
9	・家事行為のプロセスを考える 利用者を観察し支援のポイントを考える
10	・掃除体験 演習:調理、掃除、裁縫について高齢者にとっての困難事例を考える
11	・調理体験 演習:調理をする際の困難事例を考える
12	他職種の役割と協働 多職種との連携
13	緊急時と対応について かかりつけ医の役割、多職種との連携を学ぶ
14	生活支援のまとめ 介護支援専門員の役割を知る
15	定期テスト 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術 D（実技基礎） ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

介護福祉士として利用者のさまざまな生活支援を展開していくうえで必ず立ち返るべき技術である。介護福祉士が身につけておくべき生活支援技術を学ぶ前に、基本となる介護技術の専門用語の意味について理解し、介護福祉士が行う生活支援を十分に提供できるよう、その根拠となる理論を学ぶ。

2 到達目標

介護技術の根拠には、人の身体の生理やつくりといった解剖学、あるいは動きいった人間工学、日常生活における家政学など実にさまざまな学問が背景にあります。アセスメントにはこうした知識や、利用者の生活ニーズや生活歴などの属性を統合し、評価し、利用者に見合った的確な介護技術を提供できるようにについて学ぶ。

3 授業の方法

介護技術の基礎練習では人形モデルを使用して演習を行う。各学生がモデルと介護者になり互いの気持ちを理解できるようになる演習を実施する。実際の場面では利用者に対するコミュニケーションが重要であることを理解させ、演習の際もコミュニケーションを中心に演習を行う。DVD（介護技術）を視聴、技術の基礎を学ぶ。

4 成績評価方法・基準

定期試験（筆記）	50%
技術	30%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、積極的に介護技術の演習に取り組み、演習の際の身だしなみ、声の出し方など授業態度を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って予習、復習をすること。

演習が十分できなかつた場合は、次の演習時間までに習得しておくこと。

7 教科書・参考図書

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

身だしなみを整え、積極的・意欲的な姿勢で見学・演習に臨んでください。

まず、利用者に理解できるように、的確に声を出すことを学びましょう。

9 教員氏名（ 小嶋 千尋 ）

所 属（ ころろ医療専門学校壱岐校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（介護及び老健施設において介護職員として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (生活支援技術 D (実技基礎))

回数	授業内容
1	基本となる介護技術とは何か 生活支援技術の意味 介護の専門性について
2	アセスメントとは何か アセスメントの意味、プロセスについて
3	アセスメントとICFについて ICFの考え方とアセスメントの実際
4	ICFの考え方とアセスメント ICFの構成要素
5	身じたくの意義と目的 身じたくの種類と意義 TPOに応じた身じたく
6	演習: 身じたくにおける介護技術 整容、口腔ケア、衣服の着脱 (評価)
7	演習: 身じたくの介護における他職種の役割と協働
8	移動の意義と目的 移動・移乗の介護の基本的理解
9	移動の介護における他職種の役割 長期臥床による影響 移動におけるアセスメント
10	演習: 移動におけるボディメカニクスを応用 ベッド上での移動介助
11	演習: 移動の介護 ・車いす ・杖方向 ・ウオーカーケイン ・階段での介助方法など
12	食事における介護技術 食事におけるアセスメント 環境づくり
13	演習: 食事における介護技術方法 誤嚥・窒息の防止 脱水の予防
14	演習: 食事における介護技術方法 片麻痺のある人の介助方法 (評価)
15	演習: 食事における介護技術方法 寝たきりの人の介助方法 (評価)
16	入浴・清潔保持の意義と目的 入浴・清潔保持におけるアセスメント
17	入浴の介護に必要な情報 多職種との協働
18	演習: 入浴の介助 部分浴に介助 清潔保持の介助 入浴中の事故について
19	排泄における介護の意義と目的 自立支援を排泄の介護
20	演習: 排泄の介護の実際 排泄介助の方法 使用する物品の説明
21	演習: 排泄の介護の実際 トイレ介助、オムツ交換方法、尿器の使用法等
22	演習: 排泄の介護の実際 トイレ介助、オムツ交換方法、尿器 (評価)
23	睡眠の介護における他職種の役割と協働 安眠できるベッドメイキング
24	睡眠の介護における介護職の役割 他職種連携の実際 睡眠アセスメントの実際
25	演習: 安楽な姿勢の体験 安楽な姿勢のための適切道具の使用法
26	終末期の介護における他職種の役割と介護 終末期ケアの意味について
27	終末期ケアにおける介護職の役割 家族支援の必要性
28	演習: 事例を通して介護技術の流れを行う (評価)
29	演習: 移動、入浴、食事、排泄、介護の評価を行う
30	定期試験 試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 生活支援技術 E（実技応用） ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

基本的な介護技術を用いて、その人の状態、状況に合わせた安心、安全な知識、技術を展開していく。実習で習得したさまざまな介護技術を持ち帰り、改めて介護技術の向上を図り個別ケアの重要性を理解することを学ぶ。

2 到達目標

被援助者の生活全体を見ながら、どのような支援が適切か、また利用者の潜在能力を引き出すような支援とは何かを考えながら安心、安全な技法を習得できる。個別ケアを行う場合に尊厳の保持、自立支援を基本に技術の展開ができるようになる。

3 授業の方法

施設実習で学んだ介護技術を参考に、介護サービスを提供する際の障害や疾病を理解したうえで、実践する介護行為の根拠となるものを考える。

4 成績評価方法・基準

定期試験（筆記）	50%
実技（授業内評価）	30%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、演習時の授業態度、身だしなみを評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って予習、復習をしてください。特に技術の課題があった場合は復習をしっかりして次回の授業に備えること。

7 使用教材・教具

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ 中央法規出版

8 学生へのメッセージ

利用者に対して、尊厳の保持、自立支援を理解しながらインフォームド・コンセントを基本に介護技術が提供できるようになりましょう。

9 教員氏名（ 小嶋 千尋 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（介護及び老健施設において介護職員として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (生活支援技術 E (実技応用))

回数	授業内容
1	個別援助計画に沿って介護技術を展開していくことを理解する
2	高齢者や個別的な障害児・者に対する介護技術の展開を行う
3	身じたくの意義と目的 身じたくの種類
4	(実技)衣類の着脱の方法、障害がある人の着脱、寝たきりの人の着脱方法
5	整容における介護 口腔ケアにおけるアセスメント
6	(実技)口腔ケアの実際 義歯の装着方法 義歯の手入れの方法
7	整容における介護 障害のある人の洗顔 寝たきりの人の整容
8	(実技)シェーバーによる顔面の整容の実際
9	安全・安心の移乗の方法 ボディメカニクスに沿った以上方法
10	(実技)屋外での車いす介助方法 障害物の対応の仕方 安全・安心な介助方法
11	障害児・者の移乗介助の方法 障害の疾病となる病識を理解する
12	(実技)移乗の実際 ベッドから車椅子移乗 車いすからベッドへの移乗方法
13	車いすの介助方法 屋内での車いす介助、屋外での車椅子介助の留意点
14	(実技)屋外での車いす介助方法 障害物の対応の仕方 安全・安心な介助方法
15	片麻痺の人の歩行の介助方法 障害の理解
16	(実技)杖歩行・歩行器の実際 杖の種類 安全な歩行介助の方法
17	食事の介助方法 介助が必要な人の障害の理解
18	(実技)片麻痺の人の食事介助の実際 誤嚥予防の介助方法
19	入浴・清潔保持における入浴介助の実際
20	(実技)片麻痺のある人の入浴介助 障害に合わせた介助方法の留意点
21	入浴・寝たきりの人の入浴介助の実際 入浴前後のバイタルの留意点
22	(実技)特殊入浴器を使用した入浴介助の実際 使用物品の準備・確認
23	排泄における介助の留意点 頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応
24	(実技)尿器、差し込み便器の使用法 排泄のための道具、用具の理解
25	排泄の介助のチェックポイント 他職種協働による介助の留意点
26	(実技)寝たきりの人の介助の実際
27	終末期における介助技術の提供
28	(実技)整容、身だしなみ、安楽な体位変換、口腔ケア、医療との連携
29	実技の評価 食事介助、移乗移動、着脱の介護、排泄の介助
30	定期試験 解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (介護過程 I)

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

介護福祉士に求められる専門知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開が求められる。このような介護過程の展開に基づいた生活支援が、利用者の「尊厳を守るケア」「個別ケア」を実現することを教授する。

2 到達目標

対象となる高齢者や障害のある方の生活支援の根拠として、アセスメント(情報も収集)、課題の明確化、課題に対して長期目標・短期目標を考え介護計画を考えることができ、計画の実践が的確にできる。ケアプランとの関連性を理解できるようになる。

3 授業の方法

介護過程に必要なアセスメント方法、情報の分析、課題を考えることができる。
ケアマネジメントと介護過程の関係を理解すること。施設実習の際には介護計画の作成ができるように学ぶ。

4 成績評価方法

定期試験	80%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、積極性のある授業態度を評価する。
個別援助計画の作成ができ、提出期限を守ることを評価する。

6 授業時間外学習(予習・復習等)の具体的内容

授業計画に沿って授業の予習・復習ができること
個別援助計画を完成するように時間外でも作成に取り掛かること。

7 使用教材・教具

新・介護福祉士養成講座 「介護過程」 中央法規 出版

8 学生へのメッセージ

「利用者を知ること」の大切さ、思考過程を理解し、アセスメントの重要性、介護計画の作成ができる。ケアプランとの関連性、個別ケアの重要性を理解できるようにしましょう。

9 教員氏名 (田島 百合子)

所 属 (こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科)

実務経験の詳細 (介護及び老健施設において介護職員として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（ 介護過程Ⅰ ）

回数	授業内容
1	介護過程とは ICFの視点に基づく利用者増の把握 尊厳を守るケアの実践
2	介護過程とは 個別ケアの実践 根拠に基づく介護実践と的確な記録の書き方
3	生活支援の考え方と介護過程の必要性 介護過程と生活支援
4	介護過程の全体像、アセスメントから課題を考える
5	介護過程 根拠に基づく介護過程の展開
6	アセスメントに必要な知識 セスメントの方法 情報の収集の方法
7	アセスメントの実際 情報の解釈・関連づけ・統合化の方法
8	アセスメント表の作成 課題の明確化 課題の優先順位
9	計画の立案 介護計画の意義・目的 ADLからQOLへ
10	介護計画とは ケアの標準化と個別化の視点 ケアプランとの連携
11	介護計画の立案と内容 目標の設定 長期目標と短期目標の考え方
12	介護計画 具体的な支援内容・支援方法について具体的に書く
13	実施のための準備 目標の確認 実施の際の留意点 安全と安心 尊厳の保持
14	評価方法 評価の意義と目的 評価方法 計画修正の必要性
15	定期試験 ・解説
16	介護過程とチームアプローチ 介護過程とケアマネジメントの関係性
17	ケアマネジメントの定義、構成要素について
18	ケアマネジメントの歴史的背景 ケアマネジメントと介護過程
19	ケアプランと個別援助計画の関係性 チームアプローチの必要性
20	チームにおける介護福祉士の役割 専門職の視点
21	「介護過程」展開の実際 事例をとおして考察する(高齢者施設に入所している)
22	「介護過程」展開の実際 事例をとおして考察する(在宅で生活をしている)
23	「介護過程」展開の実際 事例をとおして考察する(障害のある方の生活から)
24	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開、事例で考える利用者の生活と介護過程の展開
25	利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開 介護過程の展開の実際
26	事例研究1、母親の入院後における精神障害のある生活支援
27	事例研究2、進行性ジストロフィによる重度障害のある人の生活支援
28	事例研究3、在宅でターミナルケアを迎える高齢者の生活支援
29	事例研究4、片麻痺のある人の高齢者の夢実現に向けた支援
30	定期試験 試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護過程Ⅱ（ケアマネジメント） ）

学科名 介護福祉科

学年 2 年

1 授業の内容

介護福祉士には、専門知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力が求められる。このような介護過程の展開に基づいた生活支援が利用者の「尊厳を守るケア」「個別ケア」を実現することを理解する。

2 到達目標

I C F，社会モデル、目標向上プログラムの関連性が理解できる。
実習第2段階で実践した個別ケアにおける介護過程「個別援助計画書」を振り返り、利用者を取り巻く状況や利用者個人の生活と「全人的ケア」とは何かを学ぶ。

3 授業の方法

事例を通して事例者のアセスメント表を作成できる。
施設実習で対象者を決めた後、作成したアセスメントの分析を行い同時に対象者の課題を考えることができる。

4 成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、授業態度
提出物が期限内に提出すること。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って予習、復習をすること。
個別援助計画を期限内に提出できるよう作成すること。

7 使用教材・教具

新・介護福祉士養成講座（第3版） 中央法規 「介護過程」
アセスメント表

8 学生へのメッセージ

介護過程における思考過程とは何か、I C Fの理念が理解でき、アセスメントから利用者の生活困難の場面を考え、「生活のしづらさ」という課題の明確化を考えることができるようになりましょう。

9 教員氏名（ 田島百合子 ）

所 属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科）
実務経験の詳細（介護及び老健施設において介護職員として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（ 介護過程Ⅱ（ケアマネジメント） ）

回数	授業内容
1	ケアマネジメントと介護過程（個別援助計画）の基本理解
2	ケアマネジメントの構成、特徴について
3	介護専門支援員と介護職、他専門職との協働について
4	居宅におけるケアマネジメントの過程とケアプラン 居宅介護計画の実際
5	施設におけるケアマネジメントの実際とケアプラン 施設介護計画の実際
6	認知症対応型共同生活介護（グループホーム） 居宅介護計画の実際
7	デイサービスにおけるケアプランの実際と個別援助計画について
8	演習：実習施設の利用者B様の介護過程の作成 アセスメント～課題の明確化
9	演習：実習施設利用者の介護過程の作成 計画の実施の状況～評価まで
10	発表：意見交換 よりよい個別援助計画を作成するための発表
11	意見交換後の事例に対して、再アセスメント、個別援助計画の見直し。
12	介護職と他職種との協働のあり方について
13	「尊厳を守るケア」「個別ケア」について介護過程が展開される
14	職能団体「介護福祉士会」介護の倫理綱領についての理解
15	定期試験 解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (介護過程Ⅲ)

学科名 介護福祉科

学年 2 年

1 授業の内容

1年次に学んだ介護過程の展開について、さらに理解を深めるよう復習します。実際の介護現場において利用者一人ひとりに応じた個別援助計画を立案できるよう、とくに第2段階実習後は、さまざまな事例について学ぶ。介護過程を展開していくにあたり個別ケアが実践できるようになる。

2 到達目標

利用者に必要な支援が何か考え、全人的ケアの理解が出来る。
利用者一人一人に応じた個別援助計画を立案・実施できる。

3 授業の方法

第Ⅲ段階施設実習において各自が担当した利用者の介護計画を立案、計画に沿ってサービスの実施、評価までを実習指導者を招いて発表会を実施する。行動した介護計画の改善する部分について意見交換ができるようにする。

4 成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業評価	20%

5 評価の際の特記事項

授業中の積極的な意見の交換、グループワークでは協調性があるかを評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

個別援助計画の作成に関しては、予習、復習をすること。

7 使用教材・教具

介護過程（新・介護福祉士養成講座 中央法規出版）
プリント配付

8 学生へのメッセージ

I C F の理解、社会モデルとの統合化をしながら個別援助計画の作成ができます。個別援助計画を作成する際、情報収集の方法、情報から課題を明確化にし、計画立案、ケアの実施、評価に至るまで学生自らの判断で作成する。また多職種との協働とはなにかを理解しましょう。

9 教員氏名 (田島百合子)

所 属 (ところ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科)

実務経験の詳細 (介護及び老健施設において介護職員として勤務経験あり)

10 特記事項

実務的経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (介護過程Ⅲ)

回数	授業内容
1	介護過程の展開について(復習) アセスメント・計画立案・実施・評価
2	I C Fや社会モデルを基本に考え個別援助計画を立案する
3	I C I D H (国際機能分類) から I C F (国際生活機能分類) への変遷について
4	施設実習でケアをした利用者の個別援助計画を作成する
5	演習: 実習施設の利用者A様の介護過程の作成 アセスメント～課題の明確化まで
6	演習: 実習施設利用者の介護過程の作成 計画の実施の状況～評価まで
7	発表: 意見交換 よりよい個別援助計画を作成するための発表
8	意見交換後の事例に対して、個別援助計画の見直し。
9	演習: 実習施設の利用者B様の介護過程の作成 アセスメント～課題の明確化
10	演習: 実習施設利用者の介護過程の作成 計画の実施の状況～評価まで
11	発表: 意見交換 よりよい個別援助計画を作成するための発表
12	意見交換後の事例に対して、再アセスメント、個別援助計画の見直し
13	演習: 実習施設の利用者C様の介護過程の作成 アセスメント～課題の明確化
14	演習: 実習施設利用者の介護過程の作成 計画の実施の状況～評価まで
15	発表: 意見交換 よりよい個別援助計画を作成するための発表
16	意見交換後の事例に対して、再アセスメント、個別援助計画の見直し
17	演習: 実習施設の利用者D様の介護過程の作成 アセスメント～課題の明確化
18	演習: 実習施設利用者の介護過程の作成 計画の実施の状況～評価まで
19	発表: 意見交換 よりよい個別援助計画を作成するための発表
20	意見交換後の事例に対して、再アセスメント、個別援助計画の見直し
21	演習: 実習施設の利用者E様の介護過程の作成 アセスメント～課題の明確化
22	演習: 実習施設利用者の介護過程の作成 計画の実施の状況～評価まで
23	発表: 意見交換 よりよい個別援助計画を作成するための発表
24	意見交換後の事例に対して、再アセスメント、個別援助計画の見直し
25	演習: 実習施設の利用者F様の介護過程の作成 アセスメント～課題の明確化
26	演習: 実習施設利用者の介護過程の作成 計画の実施の状況～評価まで
27	発表: 意見交換 よりよい個別援助計画を作成するための発表
28	意見交換後の事例に対して、再アセスメント、個別援助計画の見直し
29	介護過程で学んだ個別援助系計画に必要な思考過程の重要性について
30	定期試験 試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護総合演習Ⅰ ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

介護実習の意義、必要性を理解するために施設概要等について学ぶ。実習に向けての心構え、記録の書き方、礼儀、マナー、施設の理解、実習書類の準備など行い、実りある実習が行えるようにする。また、実習終了後には報告会を実施し、振り返りを行なう。利用者の尊厳の保持、自立支援を基本に実習に取り組むことができる。

2 到達目標

他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢、円滑なコミュニケーションの取り方の基本、的確な記録・記述の方法、人権擁護の視点、職業倫理を身に付ける。尊厳の保持、自立支援を基本に学校で学んだ介護技術を展開でき、安心・安全な技術を実践できるようになる。

3 授業の方法

第Ⅰ段階施設「実習における心構え」の徹底指導、報告・連絡・相談の重要性を学ぶ。実習に必要な書類、介護レポートの書き方を練習する。

4 成績評価方法・基準

定期試験	60%
授業態度	20%
提出物	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、授業態度
実習における資料の作成、実習に向けた積極的な取り組みかたを評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った予習、復習をすること。
日頃から、高齢者や障害のある方に関心を持つように努力すること。

7 使用教材・教具

新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習 中央法規 出版

8 学生へのメッセージ

コミュニケーションの基本である「笑顔」と「挨拶」を徹底しましょう。
自分の課題・目標、利用者の状況把握・課題等について、幅広い視野を持って明確化できるようにします、「言葉」を大切にしていきましょう。

9 教員氏名（ 小嶋 千尋 ）

所 属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科）

実務経験の詳細（介護及び老健施設において介護職員として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（ 介護総合演習Ⅰ ）

回数	授業内容
1	介護総合演習で何を学ぶか理解する
2	介護実習とは利用者の生活の場である場所に実習に行くということ
3	介護総合演習で何を学ぶか はじめての実習について
4	実習先の概要 介護施設サービスと在宅介護サービスについて
5	実習の心構え① 施設では、生活の場であることの実習の留意点
6	実習の心構え② 実習の心構え、相手に伝わる挨拶をすること
7	実習記録の書き方① 記録は法的根拠となる重要な書類であることへの理解
8	実習記録の書き方② プロセスレコードの記入方法
9	実習記録の書き方③ 考察の書き方
10	実習先の選定 施設サービスか在宅サービスについて選択する
11	事前訪問のための電話の掛け方の練習 実習先の選定
12	実習先の決定 実習目標を書く
13	実習にかかわる書類の作成① 個人票の書き方
14	実習にかかわる書類の作成② 誓約書の書き方
15	定期試験 解説
16	第1段階実習後の実習の振り返りを記録する
17	実習報告会の準備 実習施設の振り返り 発表準備
18	実習報告会 2年生合同で行う
19	第2段階実習にむけて実習準備 書類の作成
20	第2段階実習にむけて必要資料の準備
21	第2段階実習に向けて実習目標の作成
22	実習記録の書き方（第1段階実習の記録をとおして）
23	実習施設の選定
24	オリエンテーションの準備 選定した施設へオリエンテーションの依頼をする
25	実習にかかわる書類の作成① 実習目標の作成
26	実習にかかわる書類の作成② 個人票、誓約書の作成
27	個別ケアのアセスメント方法について 情報収集を行い場合の留意点
28	個別ケアのアセスメントから課題の抽出までを考える
29	第2段階実習の心構えを再度確認する。
30	定期試験 試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護総合演習Ⅱ ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

介護実習に必要な知識や技術、記録の書き方、介護過程の展開などについて学ぶ。実習終了後には、今後の課題を自ら見出す力を身に付けられるよう振り返り学習を行う。実習で利用者と対峙する場合は、尊厳と自立支援、利用者自身が選択できるようにインフォームドコンセント行うことができるよう介護技術を学ぶ。

2 到達目標

他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢、円滑なコミュニケーションの取り方の基本、的確な記録・記述の方法、人権擁護の視点、職業倫理を身に付ける。尊厳の保持、自立支援を基本に学校で学んだ介護技術を展開でき、安心・安全な技術を実践できるようになります。

3 授業の方法

第Ⅲ段階実習における実習時の行動のあり方、実習記録の書き方を徹底して学ぶ。実習現場では、自ら考え自らが積極的な行動ができるように学ぶ。

4 成績評価方法・基準

定期試験	60%
レポート・提出物	20%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、授業態度

実習における資料の作成、実習に向けた積極的な取り組みかたを評価します

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った予習、復習をすること

日頃から、高齢者や障害のある方に関心を持つように努力してください。

7 使用教材・教具

最新介護福祉全書 介護総合演習 ・介護実習 中央法規 出版

8 学生へのメッセージ

コミュニケーションの基本である「笑顔」と「挨拶」を徹底しましょう。

自分の課題・目標、利用者の状況把握・課題等について、幅広い視野を持って課題を明確化できるようにしましょう、常日頃から「言葉」を大切にしていきましょう。

9 教員氏名（ 田島百合子・野田比呂恵 ）

所 属（こころ医療福祉専門学校老岐校 介護福祉科）

実務経験の詳細（介護及び老健施設において介護職員として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（ 介護総合演習Ⅱ ）

回数	授業内容
1	第Ⅱ段階実習の振り返り 実習で記録した資料の確認
2	第Ⅱ段階実習の振り返り (発表準備) 実習記録の確認
3	第Ⅱ段階実習の振り返り (発表準備) 実習期間に学んだ事柄の振り返り
4	第Ⅱ段階実習の振り返り (発表) 実習状況の発表資料の作成
5	第Ⅱ段階実習の振り返り (発表) 実習において学んだことの発表
6	記録・一般常識について 介護記録の方法、考察の考え方
7	記録・一般常識について
8	介護施設・職務の理解 介護施設の種類 施設と在宅介護について
9	介護実習と介護過程 アセスメントの 情報収集の方法
10	介護実習と介護過程 アセスメントを分析する方法
11	介護実習と介護過程 アセスメントから課題を明確化する
12	事例検討指導 実習での対象者のアセスメント作成
13	事例検討指導 実習における対象者の個別援助計画の実際
14	第3段階実習準備 (書類作成)
15	定期試験 解説
16	第3段階実習準備 (書類作成) 実習に向けて個人票、誓約書などの作成
17	第3段階実習準備 (書類作成) 実習に向けて「介護目標」の作成
18	実習前指導 (心構えと注意事項) 実習における留意点
19	第3段階実習振り返り (施設へのお礼状)
20	第3段階実習振り返り (発表準備) 実習記録の確認
21	第3段階実習振り返り (発表準備) 実習期間に学んだ事柄の振り返り
22	第3段階実習振り返り (発表) 実習状況の発表資料の作成
23	第3段階実習振り返り (発表) 実習において学んだことの発表
24	第3段階実習振り返り (事例検討/記録添削)
25	第3段階実習振り返り (事例検討/記録添削)
26	第3段階実習振り返り (事例検討/記録添削)
27	第3段階実習振り返り (事例検討/記録添削)
28	第3段階実習振り返り (事例検討/記録添削)
29	第3段階実習振り返り (事例検討/記録添削) まとめ
30	後期試験 試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護実習（第Ⅰ段階実習） ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

介護実習は臨地で利用者との関わりを通して、専門職となるために必要な「実践力」を養うための体験学習である。実習では各領域で習得する知識や技術の統合を図ることが求められている。さらに、介護福祉士の役割を理解し、自らの介護観を形成することが必要になる。

2 到達目標

利用者個々の生活リズムや個性を捉え、適切なコミュニケーションができる。
尊厳の保持、自立支援を理解してコミュニケーションを実践する。

3 授業の方法

DVD「職務理解」視聴、実習施設の種類、施設の役割を知る。
実習に必要な書類の確認、実習のしおり、実習記録、プロセスレコードの書き方を学ぶ。
実習期間の行動について、積極的な実習の仕方、報告・連絡・相談の重要性を理解する。

4 成績評価方法・基準

実習評価表、実習態度を評価する。
実習課題の作成を提出する。

5 評価の際の特記事項

提出資料を期限内に提出できたか、実習態度を評価する。
施設指導者と巡回担当教員で評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習前日の資料の点検をすること。
実習に必要な物品の確認をすること。

7 使用教材・教具

「実習のしおり」参考にする。
必要に応じて各科目の教科書を参考にする。

8 学生へのメッセージ

学内では学べない技術や他職種の活動状況を積極的に学んで実践してください。
施設の機能や施設を利用している利用者、また他職種の業務内容も学んでください。

9 教員氏名（ 田島百合子・小嶋千尋・野田比呂恵 ）

所 属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（介護施設・病院において介護職員・看護師として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業及び巡回指導。

科目名（ 介護実習（第Ⅰ段階実習） ）

回数	実習内容
1	実習期間 見学実習 10日間
2	・実習先の選定
3	・実習のしおり、実習目標、個人票の作成、提出書類の確認
4	・実習先へ実習オリエンテーションの連絡依頼
5	・実習前指導 挨拶の仕方 実習指導の受け方等
6	・実習開始 毎日の介護記録の記載
7	積極的な実習を行うこと
8	・実習終了 挨拶の仕方 提出書類の変換確認をする
9	・実習後指導 介護記録の提出 振り返りの(礼状)を書く

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護実習（第Ⅱ段階実習） ）

学科名 介護福祉科

学年 1 年

1 授業の内容

介護実習は臨地で利用者との関わりを通して、専門職となるために必要な「実践力」を養うための体験学習である。実習では各領域で習得する知識や技術の統合を図ることが求められている。さらに、第Ⅱ段階では技術の習得を目指すため、実習指導者へ積極的な働きかけにより適切なアドバイスを受ける。また個別援助計画を立案するため個別ケアの実践を行い「アセスメントシート」を完成させる。

2 到達目標

利用者の個々の生活リズムや個性を捉え、介護過程に沿った個別ケアを考える。
I C Fを活用し、アセスメントから課題の明確化までの介護過程を作成する。

3 授業の方法

実習に必要な書類の確認、実習のしおり、実習記録、プロセスレコードの書き方を学ぶ。積極的な実習の学び、報告・連絡・相談の重要性を理解する。利用者、職員とのコミュニケーションを密に行い、情報収集、情報の分析を行い、アセスメント表を作成する。

4 成績評価方法・基準

実習評価表、実習態度を評価する。
介護記録、実習課題（アセスメント）、の作成を提出する。

5 評価の際の特記事項

提出資料を期限内に提出できたか、実習態度を評価する。
施設指導者と巡回担当教員で評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習前日の資料の点検をすること。
実習に必要な物品の確認をすること。

7 使用教材・教具

「実習のしおり」参考にする。
必要に応じて各科目の教科書を参考にする。

8 学生へのメッセージ

学内では学べない技術や他職種の活動状況を積極的に学んで実践しましょう。
アセスメントの作成では、利用者とのコミュニケーションが重要になります。
尊厳の保持を念頭に適切なコミュニケーションを図りましょう。

9 教員氏名（ 田島百合子・小嶋千尋 ・野田 比呂恵 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉 ）

実務経験の詳細（介護施設・病院において介護職員・看護師として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業及び巡回による指導。

科目名（ 介護実習（第Ⅱ段階実習） ）

回数	授業内容
1	第Ⅱ段階実習 実習期間22日
2	・実習先の選定
3	・実習のしおり、実習目標、 個人票の作成、 提出書類の確認
4	・実習先へ実習オリエンテーションの日程を学生自ら連絡し依頼する
5	・実習前指導 挨拶の仕方 実習指導(アドバイス)の受け方等
6	・実習開始 毎日の介護記録の記載
7	技術の習得に関して積極的な行動をすること
8	・実習終了 挨拶のしかた 提出書類の変換確認をする
9	・実習後指導 介護記録の提出 振り返りの(礼状)を書く
10	(第Ⅱ段階課題)
11	アセスメント表作成
12	実習1週 アセスメント対象者の選定、コミュニケーション
13	実習2週 情報収集 コミュニケーション
14	実習3週 情報収集 コミュニケーション
15	実習4週 課題の明確化を図る
16	実習終了後、個別援助計画の研究発表を行う

シラバス（授業計画書）

科目名（ 介護実習（第Ⅲ段階実習） ）

学科名 介護福祉科

学年 2 年

1 授業の内容

個別ケアを行うため個別援助計画作成を立案する。個別ケアの実践において個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の生活課題を明確にして実践する。実施後の評価やこれを踏まえた個別計画の修正といった介護過程の展開し、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

2 到達目標

地域で暮らす高齢者・障害者がその人らしさを維持しながら生活する状況を理解する。介護過程を学んだ思考のプロセスを実際の利用者を受け持ちながら、計画を実践する。施設の機能や基本的な生活支援技術について学ぶ。

3 授業の方法

実習に必要な書類の確認。利用者、職員とのコミュニケーションを密に行い、情報収集、情報の分析、介護計画の作成、評価まで行う。積極的な実習の学び、報告・連絡・相談の重要性を理解する。

4 成績評価方法・基準

実習評価表、実習態度を評価する。
介護記録、実習課題（個別援助計画書）の作成を評価する。

5 評価の際の特記事項

実習資料を期限内に提出できたか、また実習第度も評価する。
施設実習指導者と巡回教員と評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習前日に実習の必要な物品や記録の確認をすること。

7 使用教材・教具

新・介護福祉養成講座 介護過程 中央法規（第3版）
必要に応じて各科目の教科書を参考にする。
「実習のしおり」を参考にする。

8 学生へのメッセージ

学内では学べない技術等の指導を受け積極的に行動しましょう。
個別援助計画の作成のためのアセスメントから評価まで、対象となる利用者の尊厳を守りながらコミュニケーションを図り個別援助計画を作成しましょう。

9 教員氏名（ 田島百合子 小嶋千尋・野田比呂恵 ）

所 属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科 ）

実務経験の詳細（介護施設・病院において介護職員・看護師として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業及び実習巡回による指導。

科目名（ 介護実習（第Ⅲ段階実習） ）

回数	授業内容
1	第Ⅲ段階実習 実習期間25日間
2	・実習の選定
3	・実習資料の確認 実習のしおり 実習目標 個人票の作成 個別援助計画資料
4	・実習先へ実習オリエンテーションの連絡依頼
5	・実習前指導 挨拶の仕方 実習指導の受け方など
6	・実習開始 毎日の介護記録の記載
7	技術の習得に関して積極的な行動をすること
8	・実習終了 挨拶の仕方 提出物の返還確認をする
9	・実習後指導 介護記録の提出 振り返りの(礼状)を作成する
10	(第Ⅲ段階 実習課題)
11	個別援助計画作成
12	実習1週 コミュニケーション 計画対象者の確定
13	実習2週 アセスメント作成情報収集 コミュニケーション
14	実習3週 個別援助計画作成
15	実習4週 計画の実施
16	実習5週 実施の評価 再アセスメントまで
17	実習終了後、個別援助計画の研究発表を行う

シラバス（授業計画書）

科目名（ 障害の理解 ）

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

障害についての基礎知識を学習し、障害者の心理面などその特性を理解し、当事者の思いや生活実態を踏まえながら、障害の概念を学ぶ。また、障害福祉の基本理念となる、ノーマライゼーション、リハビリテーションについて障害者と生活について学び知ること、家族を含めた支援と地域連携についての理解も深める。

2 到達目標

障害とは何か説明でき、障害者と社会との関連や、どのように支援していくのかそれぞれの障害ごとに説明できる。

I C F の理解を深め、他の科目との関連性を述べるができる。

3 授業の内容

障害福祉の基本的理念であるノーマライゼーションについて理解を深める。
高齢者や障害のある人の障害の疾病や形態を理解する。
介助が必要になった場合の「生活のしづらさ」を学び、支援方法を考える。

4 成績評価方法・基準

定期試験 80%

授業態度 20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、授業中の態度、積極的な発表や自分の考えを述べることを評価します

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った予習、復習をしていくこと。

配布した資料の見直しや復習をすること。

7 使用教材・教具

新・介護福祉士養成講座 障害の理解 中央法規

新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ 中央法規

8 学生へのメッセージ

障害という疾患の側面だけでなく、障害のある人の生き方に、どのように介護を展開していくのか人間理解も含めた学習をしていきましょう。

9 教員氏名（ 野田比呂恵 ）

所 属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科）

実務経験の詳細（介護及び老健施設において介護職員として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (障害の理解)

回数	授業内容
1	障害の基礎的理解 障害の概念 I C I D Hと I C Fの考え方
2	わが国における障害者の法的定義 障害者の特徴
3	障害者福祉の基本的理念 ノーマライゼーション、リハビリテーションなど
4	障害のある人の生活の理解 視覚障害のある人の生活 介護上の留意点
5	聴覚・言語障害のある人の生活 医学的理解、心理的理解、生活の理解
6	補聴器をつけた高齢者を介護する場合の留意点 介護上の留意点
7	重複障害のある人の生活 盲ろう重複障害のある人の理解。生活について
8	肢体不自由（運動機能障害）のある人の生活
9	肢体不自由のある人の医学的、心理的、生活の理解 介護上の留意点について
10	知的障害のある人の生活障害、心理的理解、医学的理解、介護上の留意点
11	精神障害のある人の生活 医学的理解 精神障害の分類 介護の留意点
12	高次脳障害のある人の生活 高次脳障害の症状について
13	発達障害のある人の生活 発達障害のある人
14	重症心身障害のある人の生活 医療支援と医療的ケア
15	定期試験 解答解説
16	障害のある人の生活の理解 内部障害のある人の理解
17	呼吸機能障害のある人の理解 心理的理解、生活の理解
18	感染症 HIV感染している利用者が抱える困難 介護上の留意点
19	難病のある人の生活 難病とは何か 疾患の特徴
20	障害のある人に対する介護の基本的視点 自己決定について
21	社会資源の活用と開発 福祉用具と自立 ユニバーサルデザインについて
22	家族への支援とは何か 家族支援の基本的な知識の理解
23	家族を取り巻く社会環境について これからの家族介護支援に求められていること
24	家族の状態の把握と介護負担の軽減
25	本人支援と家族支援、障害にわたる支援
26	障害児を持つ母親の心理的負担 保健医療福祉などとの連携
27	保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携（チームアプローチ）
28	サービス管理責任者、相談支援専門員の役割
29	地域におけるサポート体制について 自分が在住する地域の協議会
30	定期試験 解答解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ ころとからだのしくみⅠ ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解するとともに、各介護技術に関連したころとからだのしくみについても教授する。

2 到達目標

ころとからだのしくみについての理解、個別的な介護技術方法について理解できる。健康とは何か、介護が必要な状態とは何かについて学び、精神的・身体的・社会的な健康を理解でき、利用者の健康状態判断する基準、つまり介護福祉士として利用者の生活の困難さを測る基準を理解する。

3 授業の方法

健康とは何かを考え、疾病や障害があることで日常生活に与える影響を学ぶ。理解度を確認するために、小試験を5回程度実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、小テスト、予習・復習の成果も重要な評価をする。授業態度、積極的な考え方の発言等を評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って予習・復習に取り組むこと。
配布したプリントの見直しや復習をすること。

7 使用教材・教具

新・介護福祉士養成講座　ころとからだのしくみ　中央法規　出版

8 学生へのメッセージ

自分自身の体のしくみとリンクさせながら学習を進めることで、老いに関する身体機能の変化や低下について理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 野田比呂恵 ）

所 属（ころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科）
実務経験の詳細（病院において看護師として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (こころとからだのしくみⅠ)

回数	授業内容
1	「健康」とはなにか 健康の定義 健康観について
2	こころの仕組みを理解する 人間の欲求とは 自己実現について
3	自己実現と尊厳 自己概念に影響する要因 生きがいについて
4	こころのしくみの基礎 人間の欲求とは 「こころ」とは何か
5	自己実現と尊厳 自己概念に影響する要因
6	こころのしくみの基礎 感情、認知、意欲・動機づけ、適応のしくみ
7	からだのしくみを理解する 生命に維持、全身の骨格、血液成分
8	身体の動き 加齢による低下、骨・関節・筋肉の動き
9	身支度に関連した仕組み 口腔の観察、口臭の予防と対応策
10	心身の機能低下が身支度に及ぼす影響 外出浴が低下した利用者の理解
11	変化の気づきと対応 身支度での観察のポイント
12	移動に関連したしくみ 基本的な姿勢 安定した姿勢とは
13	心身の機能低下が移動の及ぼす影響 精神機能、身体機能の低下が及ぼす影響
14	変化の気づきと対応 移動での観察のポイント 利用者の変化に対応する
15	前期定期試験 試験解説
16	食事に関連したしくみ 食事介助が必要な利用者の問題と対応
17	心身の機能低下が食事に及ぼす影響 疾患や機能低下が食事に影響を及ぼす
18	変化の気づきと対応 食事量が減ってきた利用者の状態整理
19	入浴・清潔に関連したしくみ 入浴の効果 陰部・肛門の清潔
20	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 皮膚の変化に合わせた入浴・清潔
21	変化の気づきと対応 清潔保持の観察とポイント
22	排泄に関連したしくみ なぜ排泄するのか 排尿と排泄のしくみについて
23	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 排泄障害の種類と特徴
24	変化の気づきと対応 排泄での観察のポイント 排尿記録の確認
25	睡眠に関連したしくみ レム睡眠とノンレム睡眠
26	心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響 睡眠障害とは
27	死に行く人に関連したしくみ 「死」のとらえ方 尊厳死とは
28	終末期から「死」までの変化と特徴 家族の負担軽減について
29	「死」に対する理解 多職種との連携のあり方 医療職との連携
30	後期定期試験 試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（　　こころとからだのしくみⅡ　　）

学科名　　介護福祉科

学年　　2年

1 授業の内容

前期は1年次に学んだことの総復習と、内容を深めた学習を行うことで知識を深める。解剖的な要素と介護技術への関連性を深めた理解を行う。今後、ますます保健・医療・福祉との連携が重要となり保健・医療・福祉が目指す生命の延長や生活の質だけでなく、尊厳ある生活を護る専門職としての学びを教授する。

2 到達目標

こころとからだのしくみを学ぶことで、介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮についても理解してできるようにする。

3 授業の内容

人体構造の基礎知識を理解するために、各臓器・器官を厚紙で作成する。
ADLに影響を及ぼす高齢者の「こころの動き」を学ぶことで、高齢者や障害のある人に対して、介護者が「共感すること」の意味を理解する。

4 成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、授業態度、小試験の結果も評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿って予習、復習をすること。
配布プリントの見直しや復習をすること。

7 使用教材・教具

プリント配布資料

8 学生へのメッセージ

知識と技術の関連性、学校で学ぶことと実際に介護することの関連性を意識した学習を行いましょう。

学んだことを介護実習や介護過程に関連させるよう意識して学んで下さい。

9 教員氏名（　　野田比呂恵　　）

所　　属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科）

実務経験の詳細（病院において看護師として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (こころとからだのしくみⅡ)

回数	授業内容
1	人体の構造と機能について 医学の歴史 医療の歴史 人体の成長と成熟
2	人体各部の構造と機能 細胞の組織と構造の機能 臓器、器官の構造
3	介護に関連したからだのしくみの理解 生命維持のしくみ 生命と生理
4	口腔に関連したこころとからだのしくみ 口腔ケアによる健康の維持
5	生活場面における身支度の理解と医療職との連携
6	移動に関連したこころとからだのしくみ基礎知識 関節可動域の維持
7	移動に関連したこころとからだのしくみ 安全・安楽な移動
8	食事に関連したこころとからだのしくみ 栄養素の種類と働き 食べるしくみ
9	機能低下・障害による起こる食事の変化と対応
10	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ 褥瘡の原因とその発生の予測
11	生活場面における入浴、清潔保持の理解と医療職との連携 感染予防の具他のな方法
12	排泄に関連したこころとからだの基礎知識 排泄の生理的意味
13	排便障害と援助方法 人工肛門に対する援助 ストーマと援助
14	生活場面における排泄の理解と医療職との連携
15	定期試験 試験解説
16	人間の欲求の基本的理解 基本的欲求、社会的欲求、欲求不満、対処の仕方
17	自己概念と尊厳 感情のしくみ、意欲のしくみ、思考の発達のしくみ
18	睡眠に関連したこころとからだの基礎知識 睡眠の定義と生理的意味
19	機能低下・障害が及ぼす睡眠への影響 不眠症、過眠症、せん妄について
20	こころのしくみに関する諸理論 精神分析学、行動主義
21	こころのしくみに関する諸理論 感情の理論、素行の発達としくみ
22	睡眠に関連したこころとからだの基礎知識 睡眠の定義と生理的意味
23	機能低下・障害が及ぼす睡眠への影響 不眠症、過眠症、せん妄について
24	睡眠に関連したこころとからだの基礎知識 睡眠の定義と生理的意味
25	機能低下・障害が及ぼす睡眠への影響 不眠症、過眠症、せん妄について
26	生活場面における睡眠の理解と医療職との連携
27	終末期介護に関連したこころとからだのしくみ 終末期における「死」の捉え方
28	終末期のからだの理解 終末期における身体機能の低下の特徴
29	終末期介護における「死」に対するこころの理解 家族への支援
30	定期試験 試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 認知症の理解 ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

認知症についての基礎知識を学習し、認知症の人の心理面などその特性を理解する。
また、認知症の人と生活について学び知ることで、家族を含めた支援と地域連携についての理解も深める。

2 到達目標

- ①認知症とどんな疾患であるかを理解できる。
- ②認知症ケアについて理解できる。
- ③認知症の特性について医学・行動・心理・生活面から理解できる。
- ④認知症の人を支える家族・地域・制度面を理解する。
- ⑤認知症に応じた的確な介護ができるようになる。

3 授業の方法

地域の「認知症リングキャラバン」による講義を依頼し、認知症に対する理解を深める啓蒙活動を理解する。グループワークのなかで、認知症の方の対応で困ることはなにか、対応策などの意見を出し理解を深める。

4 成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験を中心に授業中の積極的な発表、協調性も評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った教科書の予習、復習をすること。
配布した資料の復習をすること。

7 使用教材・教具

新・介護福祉士養成講座 認知症の理解 中央法規

8 学生へのメッセージ

認知症に対する理解を深め、認知症の人の尊厳を守った介護実践に結びつけて行きましょう。

9 教員氏名（ 野田比呂恵 ）

所 属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科）
実務経験の詳細（病院において看護師として勤務経験あり）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (認知症の理解)

回数	授業内容
1	認知症ケアについて 認知症ケアの歴史 認知症の人のこれからについて
2	認知症とは何か 認知症による生活障害を考える
3	認知症ケアの歴史 認知症の人の現在とこれから
4	認知症ケアの理念と視点 その人を中心としたケアのあり方
5	認知症の人の周りとは者とのつながり その人を中心とした繋がりについて
6	認知症の人の医学・行動・心理的理解 中核症状、周辺症状の整理
7	脳のしくみ 老化のしくみと脳の変化、脳の機能と認知症
8	認知症の記憶低下の特徴 もの忘れとの違い
9	認知症の原因疾患 認知症原因の疾病の違いについて
10	認知症の診断と治療 認知症の重症度の評価方法
11	認知症の予防 危険因子 生活習慣と認知症予防
12	地域における認知症の人やその家族への支援、取り組み方
13	認知症の人の体験 本人が生きていく過程での体験について
14	認知症の人の生活理解 「人」と「生活」の理解 「私の朝」
15	定期試験 解説
16	認知症の人の関する介護 認知症の人へのかかわり基本
17	認知症の人の関する介護 実際のかかわり方基本 相手の気持ちを考える
18	認知症の気づき おかしいなと思ったら
19	認知症の人の介護過程 アセスメント方法 本人本位の視点を考える
20	認知症の人の進行に応じた介護 初期、中期、後期の認知症を理解する
21	人が生きるということを支えるということ 老いと向きあう心の動き
22	地域の力を活かす 連携と共同 地域のケルサポート体制
23	地域の力を活かす チームアプローチについて
24	家族の力を活かす 認知症介護の元祖は「家族」 家族が背負う苦しみ
25	家族へのレスパイトケア 家族へのエンパワメント
26	家族会と連携 家族教室の役割
27	認知症対策と介護保険制度 認知症の人の介護保険利用の実態
28	その他の施策 国による認知症対策の推進
29	認知層の人の安心・安全をサポートする制度 自治体における認知症対策
30	定期試験 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 発達と老化の理解 ）

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

人は一生（生まれてから死ぬまで、または受胎から死まで）のなかで、環境や文化、親や対人との相互作用から社会的・精神的に学び、成長し発達を続けていきます。この生涯に及ぶ成長発達を生涯発達心理としてとらえそれぞれの発達段階における生理・心理的特徴を理解する。

2 到達目標

生まれてから死ぬまでの成長・発達する過程を通して人を理解し、老年期における発達課題や高齢者に多い症状・疾病の特徴、老化がもたらす高齢者の生活への影響を身体的、精神的、社会的側面からとらえ、老化に伴う変化の特徴とその対応について必要な知識を学ぶ。

3 授業の方法

人間は、生まれてから死ぬまで成長するという発達段階について学ぶ。発達段階における個人の特性を理解し、老化に伴う外見上の変化と日常生活への影響を学ぶ。

4 成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

定期試験、積極的な授業参加ができ自分の意見を述べるができること

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った教科書の予習・復習をしてくること
配布されたプリントの見直し、復習を確実にすること

7 使用教材・教具

新・介護福祉養成講座 発達と老化の理解 中央法規 出版

8 学生へのメッセージ

人の一生とは何か（生まれてから死ぬまで）の経過を学び、老いていくとは何か、また老いていく成長過程を理解し。そのなかで精神の変化、身体の変化を学びます。

9 教員氏名（ 野田比呂恵 ）

所 属（こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科）
実務経験の詳細（病院において看護師として勤務経験あり）

10 特記事項

実務的経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名（ 発達と老化の理解 ）

回数	授業内容
1	総論 発達とは 人が発達していくことの意味
2	人間の発達段階と発達課題 発達の仕方を理解する
3	ハヴィガーストの発達課題の理解
4	エリクソンの発達段階説の理解
5	遺伝と環境、発達と臨界期の基礎的理解
6	高齢者の心理生活における国際比較
7	老年とは（老いから加齢へ ストレス ストレス関連疾患 エイジズム 等）
8	老年期の発達課題の留意点（サクセスフル・エイジング）
9	老年期の人格（人格と尊厳）の理解
10	老いの価値観・受容主観的幸福感 QOL（生活・生命の質）について
11	高齢者のこころの問題と精神障害（1） 認知症とは
12	高齢者のこころの問題と精神障害（2） 気分障害 ・ 心気状態
13	高齢者のこころの問題と精神障害（3） 統合失調症 ・ せん妄・幻覚・妄想
14	高齢者のこころの問題と精神障害（4） 夜間せん妄の対応の仕方
15	定期試験 解答解説
16	要介護による高齢者の心理（1） マズローの欲求階層説と要介護状態
17	要介護による高齢者の心理（2） 不適応状態を緩和する心理
18	要介護による高齢者の心理（3） 施設入所と環境の変化と心理
19	要介護による高齢者の心理（4） まとめ
20	老化に伴う体の変化と日常生活 外見上の変化と日常生活への影響
21	老化に伴う体の変化と日常生活 免疫機能の変化と日常生活への影響
22	老化に伴う体の変化と日常生活 咀嚼機能・消化機能の変化について
23	老化に伴う体の変化と日常生活 筋、骨、関節の機能の変化について
24	老化に伴う体の変化と日常生活 泌尿器・生殖機能の変化について
25	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響（1） 記憶機能の変化
26	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響（1） 記憶機能の変化
27	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響（2） 認知機能の変化
28	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響（2） 認知機能の変化
29	老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響（3） まとめ
30	定期試験 解答解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (医療的ケア I)

学科名 介護福祉科

学年 1年

1 授業の内容

医療的ケア実施の基礎として、医療的ケアとはどういうものか。また介護福祉士が「喀痰吸引」や「経管栄養」の医療行為の一部を業として行うことができるようになった背景など、医療的ケアを安全に実施するための基礎知識について教授する。

2 到達目標

1年次に学習したところとからだのしくみ・医療的ケア I とともに、相互理解を深め、医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養）の技術を習得する。
医療的な清潔・不潔と何かを理解し、説明することができる。

3 授業の方法

清潔・不潔について手指衛生チェッカー（保健所貸与）を利用し洗い残しを確認する。
メディトレモデルを使用して、喀痰吸引や経管栄養について説明をする。
安全な療養生活を送るための喀痰吸引や経管栄養について、介護にできる安全な医療行為を学ぶ。

4 成績評価方法・基準

定期試験	80%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

授業全体の積極性や授業態度を重視して評価する。
向上心と積極性、協調性をもって授業に取り組むこと。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った教科書の予習・復習をしてくること。
授業で配布する資料を見直し医療に対して理解を深める。

7 使用教材・教具

新・介護用語福祉養成講座 医療的ケア 中央法規 出版

8 学生へのメッセージ

医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養）は、生命に関わることもある行為です。演習を通して正確な技術と状況に応じたコミュニケーション能力を身につけてください。医療を学ぶことで、対象の理解と生活支援の幅を広げていきましょう。

9 教員氏名 (野田比呂恵)

所属 (ころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科)
実務経験の詳細 (病院において看護師として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (医療的ケア I)

回数	授業内容
1	医療的ケアとは 法律的な基準を理解をすること
2	医療的ケアとは 医療行為、倫理観について
3	喀痰吸引制度 法的根拠を学ぶ 医療的ケアと喀痰吸引の背景
4	介護職等が喀痰吸引等を実施するための要件
5	安全な療養生活 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施
6	救急蘇生法 救急蘇生法の手順とポイント
7	清潔保持と感染予防 正しい消毒と滅菌法
8	高齢者施設、障害者施設における療養環境の清潔、予防法
9	健康状態の把握 身体・精神の健康
10	健康状態を知る項目（バイタルサイン）等 脈拍測定方法
11	喀痰吸引 高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
12	喀痰吸引 呼吸のしくみとはたらき
13	子どもの吸引と喀痰吸引に伴う感染予防
14	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順解説
15	医療的ケアの必要な利用者の状態観察の注意点
16	喀痰吸引の実施手順の流れ、ポイントと留意点
17	定期試験 解説
18	経管栄養について 基礎的知識
19	高齢者および障害児・者の経管栄養概論
20	経管栄養の種類としくみ
21	経管栄養で使用される栄養剤
22	子どもの経管栄養における注意点
23	経管栄養の感染予防策
24	経管栄養により生じる危険
25	急変・事故発生時の対応と再発防止
26	高齢者および障害児、者の経管栄養の実施手順
27	経管栄養の技術と留意点 必要物品の準備・設置について
28	経管栄養に必要なケア 口腔内や鼻、胃瘻部や消化機能を促進するケア
29	経管栄養に必要なケア 体位と整えるケア
30	経管栄養に必要なケア 経管栄養中の利用者の医師や看護師への報告
31	経管栄養に必要なケア 胃瘻部や消化機能を促進するケア
32	経管栄養実施のついて報告と記録
33	報告および記録 記録の意義と記録内容・書き方
34	定期試験・解説 経管栄養実施の報告についてと記録の書き方

シラバス (授業計画書)

科目名 (医療的ケアⅡ)

学科名 介護福祉科

学年 2年

1 授業の内容

シミュレーターを使用した「喀痰吸引」「経管栄養」および「救急蘇生法」の各演習において、ケア実施の流れ（準備から実施・報告・記録まで）の留意点について、また人工呼吸装着者への喀痰吸引、経管栄養等の手順についても演習を通して学ぶ。

2 到達目標

同時に学習しているところとからだのしくみとともに、相互理解を深め、医療的ケアの知識と技術を習得する。利用者の喀痰吸引、胃瘻のケアができるように観察の方法について学び、清潔・不潔の理解を理解する。

3 授業の方法

メディトレモデルを使って喀痰吸引、経管栄養の演習を習得するまで繰り返し練習する。消防署に依頼して救急蘇生法の方法を体験学習とする。

4 成績評価方法・基準

実技試験	80%
授業態度	20%

5 評価の際の特記事項

演習毎の（できた）チェック項目を確認しながら評価する。
演習に積極的に取り組んでいるか、授業態度を重点的に評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業計画に沿った教科書の予習・復習をすること。
時間外でも医療的ケアの必要物品の名前を覚えること。

7 使用教材・教具

新・介護福祉養成講座 医療的ケア 中央法規 出版

8 学生へのメッセージ

医療的ケアは、生命に関わることもある処置ですが日々の生活に密着した処置です。
医療を学ぶことで、対象の理解と生活支援の幅を広げていきましょう。

9 教員氏名 (野田比呂恵)

所 属 (こころ医療福祉専門学校壱岐校 介護福祉科)
実務経験の詳細 (病院において看護師として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業。

科目名 (医療的ケアⅡ)

回数	授業内容
1	喀痰吸引のケア実施についてのオリエンテーション
2	口腔内および鼻腔内の吸引に関する医師の指示の確認事項と留意点
3	清潔・不潔の確認、必要物品・器材の確認・準備の方法と環境整備の方法
4	医療的ケアを行う場合は医療関係者との連携が重要なことを理解する
5	喀痰吸引、経管栄養の際の器具を知る。人形モデルの取り扱い方について
6	喀痰吸引 (基礎的知識・実施手順)
7	いつもと違う呼吸状態とは 呼吸の回数、呼吸の音、呼吸の仕方・苦しさとは
8	吸引器・器具・器材のしくみ
9	演習：吸引器の清潔保持 (消毒剤・消毒方法) 手洗い方法
10	演習：非侵襲的人工呼吸法、口腔内・鼻腔内吸引の実施
11	演習：侵襲的人工呼吸法の気管カニューレ内部の吸引の実施
12	演習：気管カニューレ内部の吸引方法
13	演習：鼻腔からの吸引チューブの挿入方法
14	演習：吸引実施後の吸引物の確認の方法
15	演習：吸引後の片づけ方法と留意点 痰を出しやすくする体位の方法
16	喀痰吸引後実施後の利用者の医療への報告について 後片付けの方法
17	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認 トラブルと対応事例
18	経管栄養 (基礎的知識・実施手順)
19	主な消化器系機関各部の名称と構造について
20	経管栄養のしくみと種類
21	演習：胃瘻経管栄養、腸瘻経管栄養、経鼻経管栄養について
22	演習：経管栄養が必要な状態 経管栄養で注入する内容について
23	DVD 経管栄養チューブによる刺激・びらん、炎症 (スキントラブル)
24	演習：注入終了後、速やかに後片付けを行う 実施後の内容を記録する
25	演習：経鼻経管栄養実施後の利用者の状態を医療に報告する
26	演習：救急蘇生法の実際、安全確保 全身状態の観察 意識状態の確認等
27	演習：救急蘇生法の実際・気道確保 ・心肺蘇生法 救急の連鎖の重要性
28	演習：AEDを使った救命方法 電極パットを貼り付ける 心電図の解析
29	演習：AEDを使った救命方法 救急隊が来るまでの処置方法
30	定期試験 解説